

別記様式(第2条関係)

瑞穂市食育推進会議会議録

審議会等の名称	第 5 回 瑞穂市食育推進会議
開 催 日 時	平成22年1月22日(金曜日) 午後3時00分から5時00分
開 催 場 所	瑞穂市総合センター5階 第4会議室
議 題	(1) 瑞穂市食育推進計画の素案について (2) その他
出 席 委 員 欠 席 委 員	出席委員(会長)小川宣子、(副会長)福野寿英、石山絹子、大野和代、 加藤嗣泰、小林京子、千田美穂子、林春代、広瀬弥恵子 欠席委員 馬場晴美、加藤悟、河野秀明、棚橋和子、堀口峯子、 松久智子
公 開 の 可 否 (非公開理由)	可
傍 聴 人 数	0 人
審 議 の 概 要	(1) 瑞穂市食育推進計画の素案について ・目標値について ・素案全体について
事 務 局 (担 当 課)	瑞穂市 市民部 健康推進課 TEL : 058-327-8611 FAX : 058-327-4556 e-mail : kenkou@city.mizuho.lg.jp

平成21年度 第5回瑞穂市食育推進会議 会議録

日 時 平成22年1月22日（金） 午後3時から午後5時
場 所 瑞穂市総合センター5階 第4会議室
出席者 （会長）小川宣子、（副会長）福野寿英、石山絹子、大野和代、加藤嗣泰、
小林京子、千田美穂子、林春代、広瀬弥恵子
欠席者 馬場晴美、加藤悟、河野秀明、棚橋和子、堀口峯子、松久智子
事務局 3名
傍聴人 無

1. 挨拶

2. 議題説明

3. 議題

（1）瑞穂市食育推進計画の素案について

（会長） それでは議題に入りたいと思います。今日で食育推進計画の案作りは最終となります。11月から毎月集まっていたき、委員の皆さまからは食育に対する熱い思い、意見をいただきありがとうございます。事務局から説明がありましたように、計画の大枠のところはできましたが、前回の会議で目標値を設定する必要があるということで、25ページに本計画の目標にそった指標項目を記載していただきました。そして現状値、5年後の目標値が記載されております。先にこの目標値について、ご検討してもらいたいと思います。このことについて何か説明はありますか。

（事務局） はい。先に字の訂正がありましたので、修正をお願いします。指標項目に「特定健康診査の受信率」とありますが、「受信率」ではなく、「受診率」に訂正をお願いします。各指標についてですが、全ライフステージに共通した目標にそった指標項目を決めさせていただきました。また現状値につきましては、数値のないものは「―」で表しています。目標値につきましては平成26年度を目標としていますが、「特定健康診査の受診率」と「特定保健指導の実施率」に関しては平成24年度までしか目標が設定されていないため中間評価までとなっております。また、「朝食を家族とともに食べる人の割合」、「小・中学生の朝食欠食率」、「学校給食における地場産物の使用割合」の目標値は、県の食育推進計画と、「肥満者の割合」は瑞穂市の健康増進の計画である、健康みずほ21と、「やせの割合」は国の健康増進計画と整合性をとってあります。その他の目標値については事務局で決めさせていただきました。以上です。

（会長） ありがとうございます。前回の会議でもできましたが、瑞穂市

は3歳児の欠食率が県と比べて3倍近く高く、やはりこのあたりから乳幼児期の食生活が瑞穂市の問題となっており、特徴だと思います。目標値のところで数値が設定しておらず、「増加」という表現になっているところがありますが、個人的には考えられた良い表現になっていると思いますが、この辺を含めて何かご意見をいただけたらと思います。林委員どうぞ。

(林委員) 数値が設定されているところは、県や健康みずほなどと整合性をとっているということで、良いかと思います。また、関わっているものにしましては「増加」という形にしてもらえれば、そういう目標をもって活動ができますので、私としては良いと思います。

(会長) 他の方がいかがですか。千田委員いかがですか。

(千田委員) 3歳児の朝食欠食率を調べるのは、お母さん達にアンケートをとったりして、調べるのでしょうか。

(会長) 事務局の方、この現状値はどのように調べたのでしょうか。

(事務局) 保健事業で行っている、3歳児健診でアンケートをとって調べたものとなります。

(会長) 今後も同じ方法で調査していくということになるかと思います。他にご意見はありますか。石山委員どうぞ。

(石山委員) 表記の仕方ですが、目標値の「H26」を見にくいので、現状値のように記載していただきたいです。それと、「朝食を家族とともに食べる人の割合」の目標値ですが、小学生も中学生も90%以上にしたいと思うのですが、どうでしょうか。

(会長) この数値は県の食育推進計画と整合性がとってあるということですが、瑞穂市としては上を目指して、中学生も70%以上ではなく、小学生と一緒に90%にしてはどうかというご意見ですね。どうでしょうか。中々難しいところですが、前向きに目標は高く持つということは良いですよ。

加藤(嗣)委員、今みえられましたが、今、目標値について話しあっています。その中でほとんどの目標値につきましては、県や国などの計画と整合性をとっています。「朝食を家族とともに食べる人の割合」の目標値も県と整合性をとっていて、小学生は90%以上、中学生は70%以上となっているところを、瑞穂市は中学生も90%にしてはどうかというご意見がでています。加藤委員、どうでしょうか。

(加藤(嗣)委員) そうですね、100%は難しいでしょうが、県が決めた目標値というのは、平成20年度の時点でのことでしょうか。

(会長) 20年より少し前になりますね。

(加藤(嗣)委員) それでしたら、将来的にもう少し上がる可能性はあるかもしれないので、今の目標値より少し上げて良いかと思います。

(会長) ありがとうございます。大野委員いかがですか。

(大野委員) そのことに関しては、欠食率とは違うので、保護者の方の仕事の都

合などもありますし難しいと思いますが、中学生も90%にするのは良いと思います。

(会長) 広瀬委員いかがですか。

(広瀬委員) 難しいですね。

(会長) そうですね。難しいですね。小林委員どうでしょうか。

(小林委員) 実態調査を行いますと、たしかに中学生とか年齢が上がるに連れて家族と一緒に食べる割合が減ってきていますが、県としてはその現状を見て90%と70%にしたのですが、話しに出ていますように、瑞穂市としての取り組みの中で、中学生も90%でやっていこうよと、前向きに進めていくのなら90%でも良いと思います。方向性として、70%ではなくもっと上を目指すということが特徴になってくのかなと思います。

(会長) 副会長いかがですか。

(副会長) 小学生は現状値から20%増加ということで、72.6%から90%になっていますので、中学生も現実離れしないというところで、20%増加の80%くらいが良いのかなと思います。目標は高い方が良くかと思っています。

(会長) ありがとうございます。大野委員どうぞ。

(大野委員) 家族とともに食べる人の割合というのは、欠食している人は除かれているのでしょうか。

(会長) 含まれているかと思います。

どうでしょうか。80%、90%と意見がでていますが、20%増加ということで80%とするのがよろしいでしょうか。

(石山委員) 小学1年生から続けていけば、そんなに難しいことではないと思うので、今は難しいと思っても、小学1年生からのを維持していけば、90%以上でもやれそうな気がします

(会長) それでは瑞穂市の心意気ということで90%としましょうか。どうでしょうか。では、小学生が90%以上と上がってくれば、本来の姿として中学生もそのまま90%であるべきだろうということで、90%としたいと思います。その他にありますか。大野委員どうぞ。

(大野委員) 「毎食、いただきます、ごちそうさまのあいさつをする子の割合」というのは現状値はないですが、目標値に増加とありますが、保育園や学校でという意味でしょうか。

(会長) このことについてはどのように調査を行う予定ですか。

(事務局) 3歳児については3歳児健診の時に、小学生については、給食実態調査というものを行っていますので、その際に一緒に把握する予定です。

(会長) そうすると現状値がないので、目標が増加となっていて、増加したかどうかわからないと思うのですが、この増加の意味はどういったことですか。

- (事務局) 現状値はないですが、来年度から毎年数値を把握する予定です。
- (会長) 毎年、徐々に増加させていくということですね。
- (大野委員) この、いただきます、ごちそうさまに関しては、3歳児と小学生の目標しかありませんが、これは全世代を通じて大切なことなので中学生、成人も指標に入れたほうがよいと思います。
- (会長) いただきますなどの挨拶のことに關しては、前回の会議でも話し合い、全世代を通じて大切なことですが、ライフステージごとの重点的な課題として、乳幼児期の具体的な目標にだけ、「いただきます」、「ごちそうさま」が言えるようになるという目標を入れ、その他のライフステージではあえて目標としては入れないということに決まりました。しかし、目標値に3歳児、小学生だけではなく、成人期以降に關しても、目標値を入れたほうが良いというご意見ですね。
- (大野委員) はい。
- (会長) 乳幼児期や小学生の間にきっちりいただきますなどのマナーを習慣づけることで、それが自然と大人になっていっても習得されていくだろうと思います。そのため、乳幼児期や小学生の間はマナーを身につけるための取り組みを行っていくこととなってきますが、その取り組みが結果としてどうだったかということの評価するために指標を決めています。そうすると、3歳児、小学生だけでも良いかと思います。他の方はいかがでしょうか。大野委員の意見はいただきますなどの挨拶は大切なので、3歳児、小学生だけでなく、全世代に対して目標値を設定したほうが良いというご意見です。
- (大野委員) 小さい頃からしつけていき、それが大人になったら自然と言えるようになっていけばよいですが、給食費を払わない親などは、いただきますなんて言わなくてもいいなどと言っている人もいると聞いたことがあります。そのため、せめて小学生、中学生とそこまで目標値を設定してほしいと思います。
- (石山委員) いただきますなどの挨拶はとても大切だと思いますし、そのことを大野委員は全世代にわかってほしいと思われていると思うのですが、でも、小学生の頃までにしっかり浸透させていけば、中学生までいれていく必要はないのではと思います。
- (会長) 石山委員のご意見は、目標値の設定は小学生まででいいのではというご意見ですね。他の委員はいかがですか。林委員お願いします。
- (林委員) 小・中学生までは、給食など食べる前に号令があると思いますし、私達でも何か会合などありましたら、皆いただきますの挨拶は言っています。自分の子どものことになりますが、成人した息子でもこちらが忘れていても、いただきますの挨拶は言っています。そのため、幼児期にきちんとしつけをおこなっていれば大人になってもきちんと言えると思うので、このままで良いと思います。
- (会長) 他の委員はどうでしょうか。大野委員どうぞ。

- (大野委員) みなさん大人になってもいただきますの意味はわかってみえると言われているが、本当に分かっている人は実際にやっているのが良いのですが、やはりそれをわかっていない人はたくさんいると思うので、やはり小学生までだけではいけないと思います。
- (会長) どうでしょうか。林委員どうぞ。
- (林委員) いただきますというのは義務的に、目標値としてあがっているから言うことではないと思います。今まで培ってきた経験から、自然と感謝する気持ちが生まれて、言えるものだと思います。
- (会長) 前回からも皆さん色々な意見がでておりますが、食育というのは大切であり、今、感謝の気持ちも薄れつつあるということは、皆さん共有できていることだと思います。ここで問題となるのは、指標項目や目標値をどうするかということです。そのため、重点的に指標項目を設けて、それがどう効果があったかわかりやすいものが、目標値として設定されていくと思います。だから具体的に例えば、「楽しく食事を取り、「食」を通じてコミュニケーションを深める。」という項目の中にはきっと、家族でご飯を食べる中で、色んな話しをし、いただきますやごちそうさまの意味合いを話し、ということがはいつてきていると思います。でも目標を設定しなければいけない時は重要なところを押さえるということで、3歳児、小学生というのは色々な習慣を身につけていくという時期であるので、目標値にいれていくということになると思います。小林委員どうでしょうか。
- (小林委員) おっしゃる通りだと思います。評価で見ていくので、そのあたりをどうとらえていくかということで考えていけばよいのかなと思うのですが。
- (会長) 福野委員いかがですか。
- (副会長) 会長の意見の通りだと思います。
- (会長) 千田委員いかがですか。
- (千田委員) 重要なところを押さえていけばよいと思いますので、このままでよいと思います。また、学齢期のほうが調査もしやすいと思いますし、大人でどう増えたかというのは調査しにくいのではと思います。
- (会長) 広瀬委員はどうですか。
- (広瀬委員) このままで良いと思います。
- (会長) 加藤（嗣）委員どうですか。
- (加藤（嗣）委員) 実際に信頼のあるデータをとろうと思いますと、きっちとしたところで、きっちとした対象を決めなければいけないと思います。中学生を入れるか入れないかですが、3歳時から中学生までみていき、どのくらい挨拶をする割合が変わっていくのかをみるのは、社会的なデータとしては良いかと思いますが、そこまでする必要はないのではと思います。
- (会長) 大野委員、皆様の意見はこのような意見ですがどうですか。

(大野委員) この場合いただきます、ごちそうさまだけしか入っていないので、食事中はひじをつかない、音を立てない、感謝の気持ちをもって食べるようにするなど、食事のマナーについての項目としてはどうでしょうか。

(会長) 先ほどまでの意見とは別に、指標項目をいただきます、ごちそうさまだけではなく、ひじをついて食べない、音をたてて食べないなども含まれるように食に関するマナーについての項目にしたらどうかという意見ですね。

(大野委員) 1つだけしか項目としてあがっていないので、もっと他に項目を追加したほうが良いと思います。

(会長) ただ、食事のマナーとすると、色々な意味合いが入ってくるので、評価がしにくくなってしまうので、的を絞ったほうが良いと思います。もし入れるとしたらひじをついて食べない子の割合。音をたてて食べない子の割合。などとなってしまいますが、しかし、それを指標項目にしてしまいますと、わかりづらくなってしまいます。千田委員どうぞ。

(千田委員) あまり具体的にたくさんありすぎると、何を见たいのかがぼやけてしまうので、ある程度まとめなければいけないと思います。

(会長) そうですね。これはあくまでも目標値なので、こうなってほしいという思いではなく、その思いを達成できたかを見るために、重点的にどこを見て評価するかということになってきます。そうでないと、他の部分でもどんどん細かくなって、よくわからなくなってしまいます。重点項目としてどのような指標項目を掲げるかということで、このような案ができております。よろしいでしょうか。

(大野委員) はい。

(会長) 他に何かご意見はありますか。ないようでしたら、目標値についてはこれで決定としたいと思います。では、次に進めていきます。今日で最後の会議となりますので、1ページずつ確認していきたいと思います。訂正・変更があるので、それはそのページがきましたら説明していただきたいと思います。

まず1、2ページはよろしいでしょうか。

では次の3、4ページですが、このページの農産物直売所については市として今後方向性が変わってくる可能性があるということで、事務局の方説明をお願いします。

(事務局) 前回までの案の中には、農産物直売所に関して細かく記載していたのですが、今後方針が変わってくる可能性があるため、くわしく書いてありました点については削除させていただきました。

(副会長) 農産物直売所に関して事情を説明します。現在、実証実験を行っているところですが、この直売所に関しても、審議会を開きました。地産地消ということで、このような活動は大事なのですが、ただ経営的に

きちんと成り立っていないといけないものです。今のところは、生産者の育成を含め、今後も続けていくことになりますが、最終的にはＪＡの方にゆだねていくという方向に向かっています。

(会長) このようなことから、直売所に関しては差し替えにありますように表現が変えられました。また、新しい内容として、「学校などでは地域の農業者の指導・協力のもと学校田などで子どもたち自らが植えつけ、水やり、収穫などをする農作業体験も実施しています。」という内容が追加になりました。それでは３，４ページはよろしいでしょうか。では５ページにいきます。福野委員どうぞ。

(副会長) ５ページのグラフでは瑞穂市と岐阜県の値を比べていてそれは良いのですが、６ページのグラフは瑞穂市と全国で比べており、これは県のデータがないのだらうと思いますが、県と比べないと意味がないのではと思いました。

(会長) ６ページの図の３、成人の朝食欠食率についてのデータは、他のデータでは市と県が比べてあるが、このデータだけ市と全国とで比べてありますが、県のデータはないのですか、というご意見ですね。

(事務局) 県のデータはないため全国と比較してあります。

(副会長) わかりました。それから、続けてよろしいでしょうか。

(会長) はい、どうぞ。

(副会長) ６ページですが、「小中学生でも、朝食を食べずに学校へ登校する児童・生徒がみられます。」とありますが、これは図からは読み取れないと思います。その後の「特に中学生は岐阜県の平均と比べて欠食率が高くなっています。」は読み取れますが。例えば「小学生では岐阜県と同じくらいの欠食率ですが、中学生は岐阜県の平均と比べて欠食率が高くなっています。」などのようにしてはどうかと思います。

(会長) 小中学生とも、欠食率が０％ではないので、そうすると朝食を食べずに学校へ行く子がいるとわかります。そういう現状があります、ということで、「小中学生でも、朝食を食べずに学校へ登校する児童・生徒がみられます。」とあり、そして特に中学生に関しては、県と比べてみると欠食率が高くなっている、ということでその後に「特に中学生は岐阜県の平均と比べて欠食率が高くなっています。」と文章が続いていると思います。

(副会長) すみません。そのように読み取れませんでしたので。後、その下の文章ですが、「成人は全国と比較して朝食欠食率は低いですが、食べる時間がない、お腹がすいていない、朝食を食べる習慣がないなどの理由で欠食する人がみられます。」とありますが、図からは成人は全国と比較して朝食欠食率は低い、ということはわかりますが、その後の理由まではどこにもデータが記載されていなく、どこからでてきたものかわからないので、できれば「アンケート結果より」と付け加えた方がよいかと思います。

- (会長) 図の下に「瑞穂市ふれあいフェスタアンケート結果より」と書いてあるので、アンケート結果から数値もでたし、理由もでてきたということではないでしょうか。
- (副会長) そのような説明があるとわかるのですが、初めての人が見ると、いきなり「食べる時間がない、お腹がすいていない、朝食を食べる習慣がない」などを書いてあっても、これはどこからきたのかわからないのではと思いました。
- (事務局) すみません、たくさんアンケートはとったのですが、ページの都合で掲載することはできませんでしたが、私達は自分達の持っているデータから文章にしてみましたので。
- (副会長) そうなんです。おそらく事務局の方はみんなわかっているのだと思いますが、初めて見る人にはわからないのではと思いました。そのため、「アンケートの結果より」と付け加えた方が良いと思いました。
- (会長) ただ、ここだけに書いてしまうと、全てに対して書かないといけなくなってしまうので、図の下にはどこからデータをもってきたかが記載されているので、付け加えなくてもよいのではと思います。
- (副会長) そうですね。
- (会長) 色々ご意見ありがとうございました。その他にありますか。
- では7ページにいきます。
- (副会長) すみません、言葉の表現のことですが、「図4のように」を「図4では」に「～占めます」を「～占めています」などとした方が良いかと思います。
- (会長) わかりました。そうすると、細かい表現の訂正などはまだでてくると思いますので、他の委員の方でも何かお気づきの点がございましたら、事務局のほうへお願いします。そして副会長、事務局と私との間でまた相談させていただくという形をとらせていただくということで、よろしいでしょうか。まだ細かい表現などは読み込まないといけないと思いますので、何か気づいた点がありましたらご意見下さい。それでは、おおまかな内容について協議していきたいと思います。では8、9ページはどうでしょうか。
- 次10・11ページはどうでしょうか。このページは前回の会議までで十分に協議してきた内容ですね。
- では次の12・13ページですが、ここは変更点があるので説明をお願いします。
- (事務局) 前回までは具体的な目標の中に「適正な体重コントロールをし、個人にあわせて体重をふやしましょう」とありましたが「個人に合わせた適正な体重のコントロールをしましょう」に表現を変更しました。
- (会長) そうですね。この方が良い表現ですね。どうでしょうか。
- それでは次14ページですね。ここも変更があるのでお願いします。
- (事務局) 具体的な目標ですが、前回、「朝からしっかりたべましょう」という

目標に生活リズムを整えるという内容も含めたほうが良いとの意見がでていましたので、「朝からしっかり食べ、生活リズムを整えましょう」というように変更しました。

(会長) はい、前回の会議で、生活リズムについて入れてくださいと言っていたものが、ここに含まれたということですね。それから１５ページも変更ありますね。

(事務局) はい、１５ページも生活リズムのことを追加し、「保護者に食や生活リズムの大切さを知ってもらう場をつくったり、情報提供をします」に変更しました。

(会長) ここも生活リズムについて追加されたということですね。次、１６・１７ページは変更はないですね。ではその次の１８ページの変更点についてお願いします。

(事務局) 具体的な目標に変更があります。前回の会議でご指摘があった箇所ですが、「食の安全を考え、できるだけ地元でとれた旬のものを食べるようにしましょう」とありましたが、地元でとれたものが安全かというと必ずしもそうではないため、「フード・マイレージや栄養を考え、できるだけ地元でとれた旬のものを食べるようにしましょう」に変更しました。

(会長) はい、では１９ページはよろしいでしょうか。

次２０・２１ページはどうでしょうか。

(事務局) ２１ページの変更点ですが、先ほど農産物直売所について説明をさせていただきましたが、今後方向性が変わっていく可能性があるため、「地産地消の促進、地域の特産物・郷土料理を普及させていきます」の取組みの中に「瑞穂市農産物直売所（朝市）」とありましたが削除させていただきました。

(会長) 断言してしまうと変わる可能性もあるので、今後のことも考えて削除ということですね。では次の２２ページの変更をお願いします。

(事務局) ２２ページの地域の役割の中に、生産者、食品関連事業者についても記載しました。前回の会議で、２６ページの食育推進活動の連携図の地域の中に、食の生産者と食品関連事業者が含まれているが、この２つはどこにも文章の中には出てこないと意見をいただいておりますので追加しました。

(会長) よろしいでしょうか。

それでは２３・２４ページはよろしいでしょうか。委員の方からのご意見ですが、現在、食育推進活動の連携図が２６ページにきていますが、２２・２３ページのそれぞれの役割について書いてある後の、２４ページにもってきた方がよいのではというご意見がありました。どうでしょうか。

それでは位置の変更をお願いします。そしてこの食育推進活動の連携図ですが、前回から少し変わっているので説明をお願いします。

- (事務局) 前回の会議で、この図にはまとめ役がないのではとご意見をいただいていたので、まとめ役の瑞穂市食育推進会議、瑞穂市食育推進計画庁内会議を図に追加しました。
- (会長) はい、それではすみません、先ほど17ページをとばしてしまいましたので、事務局の方、説明をお願いします。
- (事務局) 17ページの2つ目の取組みで「食べものを調理したり加工する体験の場をつくります」とありますが、「食べもの」の「もの」を漢字に訂正をお願いします。もう1つ、この取組みの内容として、「絵本にでてくるお菓子作り」の活動の追加をお願いします。
- (会長) 漢字に直すということと、取組み内容の追加ですね。このお菓子作りは絵本にでてくるものでないといけないのでしょうか。
- (事務局) 図書館で行っている活動で、実際に絵本にでてくるお菓子を作るという事業になっています。
- (会長) そういことですね。そうすると、これは図書館でやっていることを書きたいのか、絵本にでてくるお菓子作りという、少しユニークなことをやっているということが書きたいのかどちらでしょうか。どなたか委員の方に入れたほうが良いと言われたものでしょうか。
- (事務局) 図書館も食育に関わっているということを伝えるために記載しました。
- (会長) そうすると、ただ「絵本にでてくるお菓子作り」と書くのではなく、図書館で行っている取組みだとわかるように記載した方が良いと思います。みなさんどうでしょうか。
- (石山委員) いきなり「絵本にでてくるお菓子作り」と書いてあってもよくわからないので、図書館のことを書いたほうが良いと思います。
- (会長) きっと図書館でやっていることを書くことで、色々なところが関わっている、ということが見えてくると思います。
- (事務局) 訂正をします。
- (会長) では少し戻ってしまいましたが、27・28ページに資料編として用語解説があります。このページは何かご意見ありますか。
- では次の29・30ページは条例なのでこのままでよいかと思います。31ページは名簿、32ページは計画の作成経過ということで、資料としては間違っていないと思います。作成経過のところに完成を入れたほうが良いと思いますが。
- それでは、ざっとですが1ページから今まで問題になったところを中心に、皆さんと一緒に目を通してきましたが、何かその他にご意見はありますか。語句についてはもう一度、事務局と私とで修正したいと思います。これで出来上がってしまいますので、その他に全体を通して何かご意見ありますか。加藤(嗣)委員どうぞ。
- (加藤(嗣)委員) 少し戻らしていただきますが、21ページのみんなの応援に「8020運動の推進」とありますが、その後に噛ミング30運動の推進を付け

加えていただくと具体的になって良いと思いますので、追加をお願いします。

(会長) それでは追加をお願いします。その他の委員の方でも、自分の所属している団体等で関係している項目の訂正はよかったでしょうか。

(事務局) 事務局からですが、今後の予定として、もう1度この会議の後に訂正したものを会長、副会長にも意見を頂き、完成したものを委員の皆様にご送らせていただき意見をお聞きしたいと思いますのですがどうでしょうか。

(会長) そうですね。ぜひそうしたほうが良いと思います。予定としては2月くらいでしょうか。

(事務局) 2月の始めには送らせていただきます。

(会長) そうすると完成は3月頃になりますか。

(会長) はい、3月下旬頃になるかと思います。完成品ですが岐阜県の食育推進計画書のようなものになる予定です。全面カラーとはいきませんが、表紙、グラフなどの図はカラーとなる予定です。

(会長) まだ先のことになるかと思いますが、概要版もできますか。

(事務局) はい、作成予定です。訂正した計画書と一緒に、概要版の素案も送らせていただきます。

(会長) 大野委員の思いは目標値のところではなく、こちらの文章の方に入れていくと良いと思いますが、よろしいでしょうか。

(大野委員) 学齢期のところのみんなの応援のページに、個人では中々できないので、行政のほうで畑を借りたりして、学童で食べものを育てる経験ができるといいと思いました。巣南地区ではあると思いますが、穂積地区ではないと思いますので。

(会長) 今後の食育は教育委員会が随分入ってくると思いますので、そうすると、今進めているものよりも、もう少し教育的なカリキュラム、学校の授業の中で多く入ってくると思います。中々難しいところですがね。

(事務局) この計画を策定して、学校とも協力してやっていけると思います。休壠田なども多くありますので。

(福野委員) 休壠田というのはこの先増えてくると思います。そのためいくらかでもできますし、協力もできますが、現実的に今すぐできるかということと難しく、学校も実際にカリキュラムの中に入れていかないと具体的にはできないと思います。

(会長) そうですね。継続的に行うということが今課題となっていて、一過性のイベント的なものではなく、継続的にカリキュラムの中に入れていくにはどうしたらいいのかということで、今後、教育委員会も含めて考えていくのではと思います。

(福野委員) 商工農政課や農業委員会でも協力はできると思います。一般の人には貸し農園がありますが、子どもに対しても実践できる場を作れると

と思いますが、カリキュラムができないと子どもが自由にできるものではないので、そういうところをどうするか考えていく場も増やさないといいませんね。

(林委員) 学校だけに押し付けるのではなくボランティアさん、地域の人たちと協力し地域ぐるみでやっていくものだと思います。

(会長) そうですね、現在どこまで巻き込んで、誰にどうしてもらうかなど、システム作りみたいなものを考えている段階だと思います。今までみたいに地域のイベントというわけではなく、方向が変わってくると思います。

それでは文言などで何かありましたら意見をいただき、事務局の方と整理していきたいと思います。そして訂正したものをもう1度、皆さんに送らせていただき、意見をもらいたいと思います。途中会長である私が意見を言い過ぎたところもありましたが、皆さん本当に思いをはっきり言っていただけて、それがここに完成できたのではと思います。まだまだ作業は残っておりますが、今後はこれをいかに推進していくか、作ったけどそれっきりというところがちょこちょこみえてきていますので、具体的にこれをどのように実行していくのかが大きな課題となってくると思います。それではこれで終わりたいと思います。

(事務局) 皆様からたくさんの意見をいただき、皆でやっていくんだという意気込みのこもった計画書ができたと思います。今後、計画書の通り、それぞれの分野でご協力をいただき、それぞれの分野でご活躍していただくことと思いますが、よろしくお願いします。本当にここまで作り上げてもらったことにお礼申し上げます。ありがとうございました。

5回に渡り活発なご意見をいただき、立派なものを完成させることができました。今後、この計画の推進をはかりたいと思いますので皆様のご協力お願い致します。本当にありがとうございました。